



今年もほぼ同じ時期に鳴きだしていることになります。

なお、10日の夜、帰宅する時にはアマガエルの鳴き声にも気がつきました。家で妻に話すと、「ずっと前から鳴いているよ！」とのことでした。なぜ私はこれまでそれを認識することがなかったのだろうか。  
(前田喜四雄)

## 奈良公園のモモ (4月12日)

奈良市登大路町の奈良国立博物館の敷地内に多くのモモが植わっています。モモには果実の収穫を目的とした通常の品種の他に、ハナモモ(花桃)と呼ばれる、観賞用の一群の品種があります。博物館の周辺のモモはすべてハナモモです。博物館別館の北側(氷室神社の向かい側)に濃い紅色で八重咲きのモモが3本生えています。カンヒトウ(寒緋桃)と呼ばれる、江戸時代から知られている、ハナモモの中で最も濃い赤色の品種です。キクモモ(菊桃)という、桃色、八重咲きで、花弁が細く、一見、キクの花のように見えるハナモモも生えています(キクモモは博物館別館の西側にも1本、西南側の春日大社参道に近い場所にも3本生えています)。このカンヒトウやキクモモと並んで、もう1本、奇妙なモモが生えています。同一の木に、紅色、桃色、白色(赤の斑が入っている)の八重咲きの花が、それぞれ枝ごとに咲き分けるハナモモです。赤と白を咲き分けるハナモモに「源平」という品種がありますが、このモモは3種類の花を咲き分けます。この木は、花期がすこし早く、4月12日の時点で、ほとんど散っていました。

なお、赤と白の花を咲き分け、枝が垂れる「ゲンベイスダレ(源平枝垂)」というハナモモの品種は私の研究室の窓際に植わっており、毎年、美しい花を咲かせます。これは、20年近く前に、京大理学部植物園から貰ってきた苗を植えたものです。また、キクモモの見事な木が奈良女子大学の学生寮の敷地内にあり、毎年、この季節に、南側の塀越しに、盛大な花を見せます。  
(北川尚史)

## 水上池付近の鳥 (61)

4月11日 朝

ウワナベ池にはカイツブリ、カルガモ(2)、ホシハジロ(オス1メス2)、キンクロハジロ(37)、バン、ケリ、キジバト、アオバト、ツバメ、セグロセキレイ、ヒヨドリ、モズ、ウグイス、エナガ、シジュウカラ、カワラヒワ、スズメ、ムクドリ、ハシブトガラスがいました。

水上池では、またコアジサシを見ました。ヨシガモがいませんでした。マガモのオスを1羽見ました。久しぶりです。セッカの声もまた聞きました。

カイツブリ、ゴイサギ(幼1)、ダイサギ(1)、アオサギ、マガモ(オス1)、カルガモ、コガモ、オカヨシガモ(オス1)、ヒドリガモ、ハシビロガモ、バン、オオバン、ケリ、タシギ、コアジサシ、キジバト、ヒバリ、ツバメ、ヒヨドリ、モズ、ツグミ、セッカ(声)、エナガ、シジュウカラ、カワラヒワ、スズメ、ムクドリ、ハシブトガラス。  
(前田健)